

6

# 吉岡 季海

*YOSHIOKA Kimi*



所属チーム／カクテル  
出身地／奈良県 年齢／21才  
持ち点／4.0

芽生え始めた代表としての自覚

# 吉岡 季海 (4.0)

### <ようやく立った“スタートライン”>

昨年「皇后杯」を下賜された女子の日本一クラブ決定戦「日本女子車いすバスケットボール選手権大会」で5連覇中と、国内女子の最強を誇るカクテル（大阪）。人数は決して多くはないが、日本代表クラスの選手が多く揃うチームだ。

吉岡季海は、そんな高いレベルのチームでプレーしてきた。特に同じ入ポイントには、日本を代表するシューターの網本麻里と北田千尋がいる。チームでも不動のレギュラーである2人の間に割って入ることは至難の業だ。

「周りはすごい選手ばかりの中、自分もそこについていきたいという思いで必死にやってきました」

そんな吉岡は、今回女子U25日本代表に抜擢され、ようやくスタートラインに立った気がしている。

吉岡がカクテルに加入したのは、2年前。ちょうど自宅の近くの体育館で練習をしていた車いすバスケのチームの人から、女子チームのカクテルを紹介してもらったことがきっかけだった。

最初の見学で、日本代表クラスがそろそろ選手たちの巧みなプレーに魅了され、すぐにチームへの加入を決めた。

もともとスポーツには興味があり、実際にやってみた競技もあった。だが、生まれつき「股関節脱臼」という障がいのある吉岡は、日常生活に支障はないものの、激しい運動となると、難しかった。そんな彼女にとって、車いすバスケはようやく自分に適したスポーツとの初めての出会いだった。

### <一つでも持ち帰りたい“自信”>

今回、女子U25日本代表に選ばれたことで、吉岡は自分自身に成長を感じている。特に大きいのは気持ちの面だ。

「カクテルではすごい選手ばかりの環境の中、甘えてしまう自分がいたと思います。でも、U25ではみんなが同じラインに立っているの、一人一人が引っ張っていかないと行けない。なので、自分も代表として自覚ある行動をしようと心掛けるようになりました」

プレーの面でも、カクテルでは何もできていないという思いがあり、U25での代表活動でその不甲斐ない自分に別れを告げ、何か一つでも自信を持ってチームに帰りたいと考えている。

現在、重点的に練習しているのはアウトサイドのシュート。まだ習得しきれっていない3Pを含めて、シュート力を磨いている。

今年3月、女子日本代表が出場した国際親善大会「大阪カップ」を訪れ、初めて海外選手のプレーを目の当たりにした吉岡は、想像以上の体格の違いに驚きを隠せなかった。ただ、そうした海外の選手とマッチアップできるのが楽しみでもある。

初めての国際大会となる世界選手権。これまでとは違うプレーヤー「吉岡季海」の姿を見せるつもりだ。